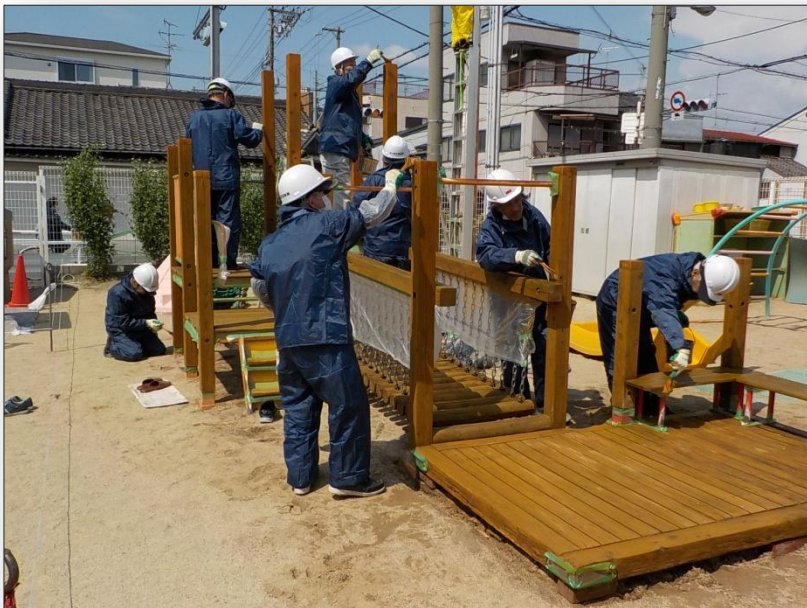
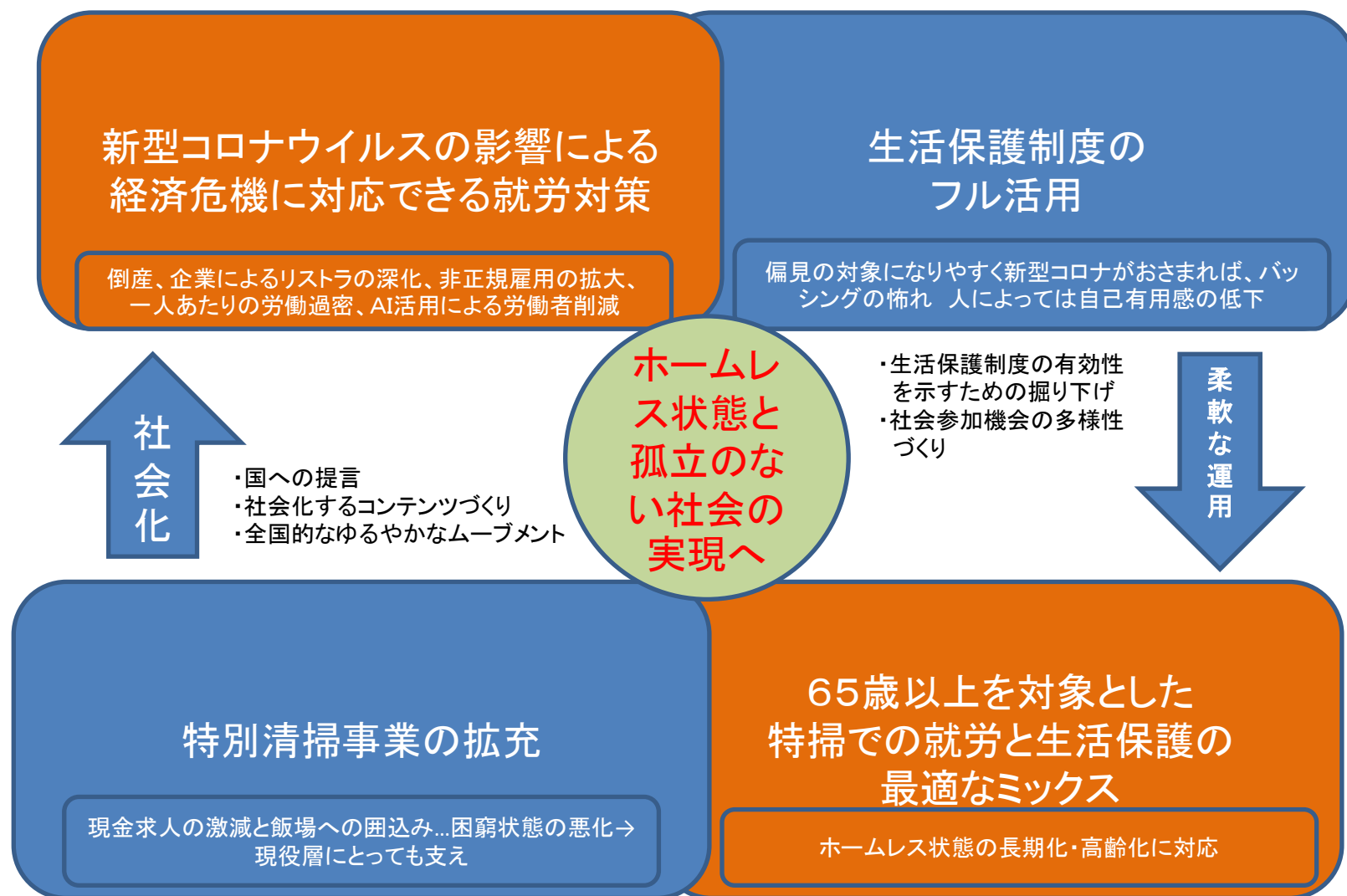


2020年度事業計画



1 ベーシックワークの実現をめざします

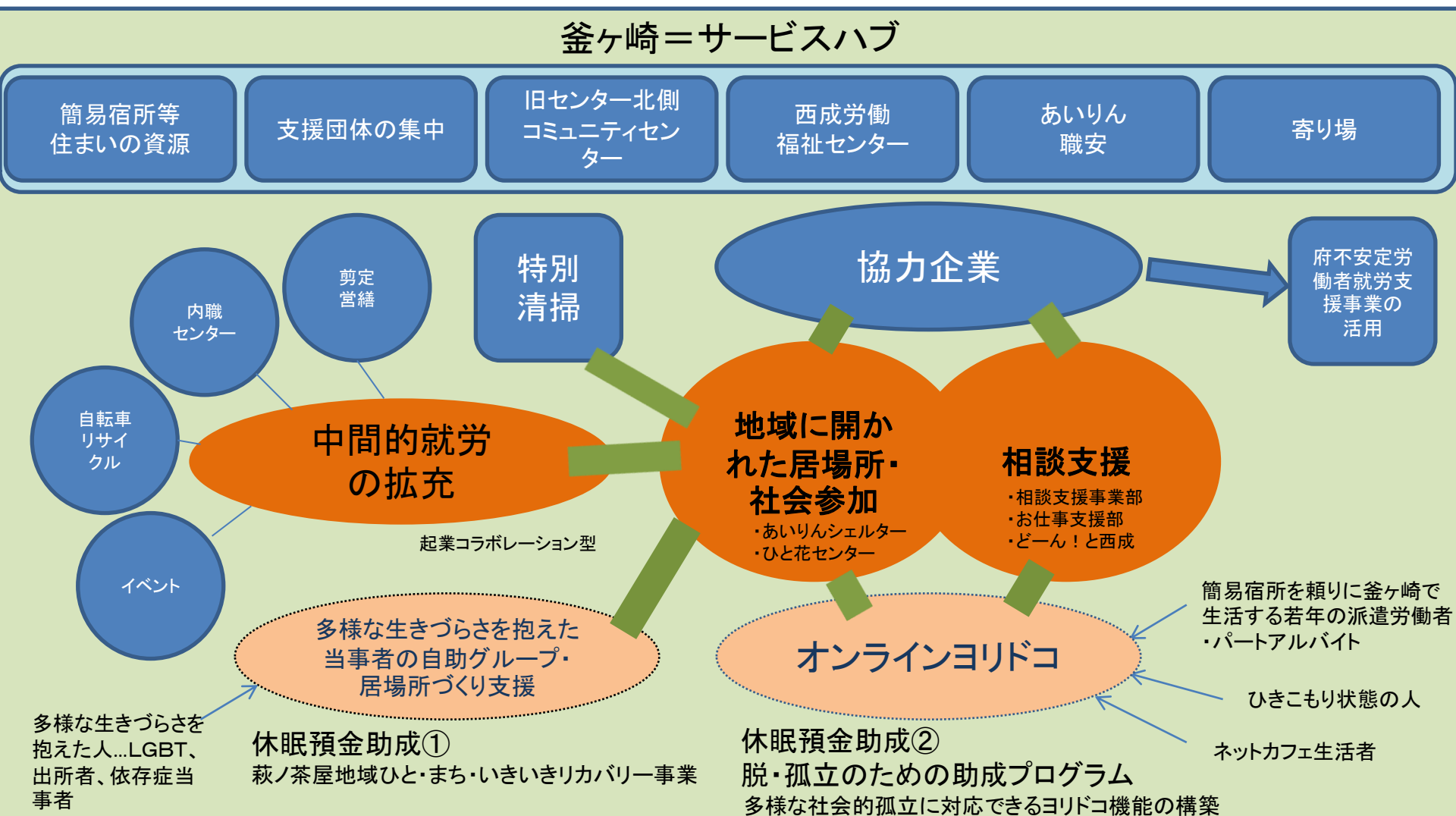
働く機会、社会的つながり／居場所の重要なパーツです。



2 不安定労働・居住、ホームレス状態、多様な困難を持つ方のヨリドコロを作ります。

2025年大阪ホームレス就業支援センターの移転予定→新労働施設へ

「釜ヶ崎＝サービスハブ」の深化をめざし、ワンストップサービスの基礎を強化します。



3 新型コロナ・ウイルスの経済への影響で新たに仕事・住まいを失う方を支えます。

住まいとくらし緊急サポートプロジェクトOSAKA

大阪の21団体、幅広い連携で。

クラウドファンディングで、支援者数522人目標金額の124%、7,153,480円を達成。

5月までに相談会3回、相談に来られた方80人、WEB相談24人、宿泊支援39人220泊、居宅確保32人、就労支援実施13人



→ 今後も緊急相談を継続すると共に、東京アンブレラ基金に学びつつ、多様な支援団体が緊急宿泊に活用できる仕組みとして基金化をめざします。

総合支援付き居住サポート

緊急宿泊・居宅確保に加えて、総合的な支援が必要な方への居住支援
国の居宅生活移行緊急支援事業の活用をめざします。

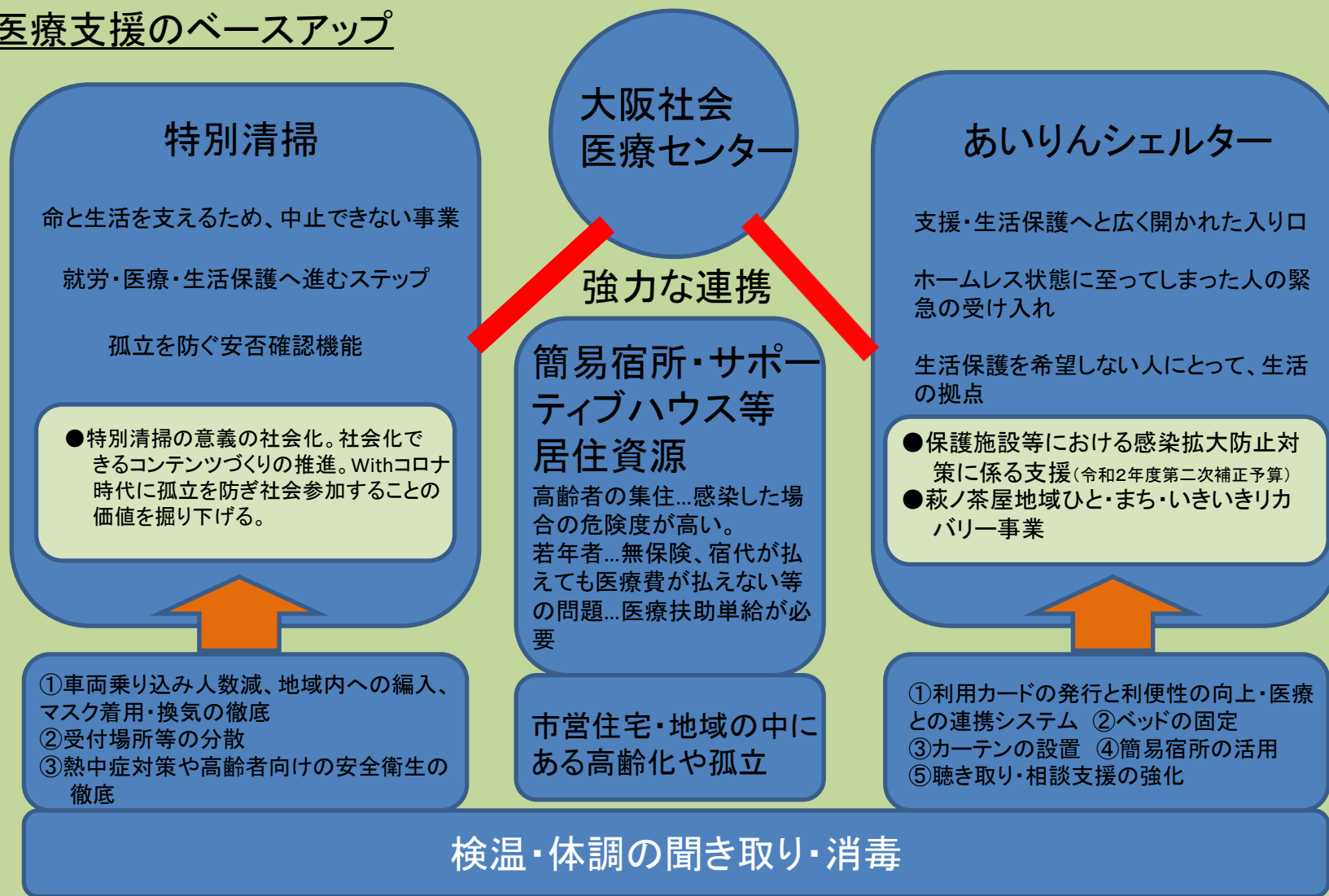
釜ヶ崎周辺でのサブリースで10室より開始。若年の方、ひとり親世帯への就労支援の充実。

→ 新しい居住支援モデルにチャレンジするとともに、釜ヶ崎が多様な人々を受け止めることができるまちでありつづけられるよう支えます。

4 感染症対策の推進 医療制度への提言 回復力ある地域づくり

新型コロナウイルス対策をバネにホームレス生活者・生活困窮者の医療支援の底上げをめざします。

医療支援のベースアップ



5 仕事づくりを進めます

